

暘谷苑

医療福祉連携室たより



人生最後のひと時を暘谷苑で過ごして下さり、ありがとうございます。



外出時の様子

初秋の候、皆様方にはますますご活躍の由お喜び申し上げます。

前回の医療連携室たよりで、暘谷福祉会のサービスについてご紹介させていただきましたが、9/1より

「デイサービス 暘谷苑」が開所致しましたのでご紹介させていただきます。

さて、暘谷苑ではターミナルケア（看取り介護）を行っています。高齢者にとって、【死をどこで迎えるか】は重要な事だと思います。住み慣れた自宅・病院・入所している施設等など様々です。暘谷苑を人生最後の場所を選択してくださる利用者・御家族様も多くいらっしゃいます。私達の看護・介護に



暘谷苑におけるターミナルケア

暘谷苑での看取りとは、積極的な医療のない中での死がどのようなものであるかを、イメージしていただければと思います。

暘谷苑では、年間約15名程度の方がお亡くなりになられます。その半数以上が暘谷苑で看取りをさせていただいています。死期が近づいていると主治医が判断した場合、御家族様、担当看護師、相談員、可能であれば本人様を集め、ターミナル担当者会議を開催します。

ターミナル担当者会議では、医師の意見、治療方針、指示事項などを確認し、本人様・御家族様が暘谷苑での看取りを希望するか、病院での看取りを希望するかを確認します。苑での看取りを希望される場合は、担当看護師より苑で出来る処置、死に至る過程などを看護師が作成した絵本を用いて説明させていただきます。説明した後、旅立ちの衣装を選択したり、葬儀社の選択したりと御家族様にゆっくりと説明し、死期が近いことを受け入れていただくようにフォローしていきます。実際に看取りの時期に直面すると、本人様や御家族様の気持ちが揺らいでしまうことも多々あります。そのため、死期が近づいた時は状況を十分に説明し同意を得ながら望む看取りを行っていきます。

看護師が作成した絵本です。これを用いて説明します。



事例1 乳がん末期で看取りした1様

平成17年に入所され、今年の4月にご逝去されるまでの間を暘谷苑で過ごされました。若い頃は助産師としてご活躍された方で、とても穏やかな性格の女性でした。

平成22年2月、乳がんの末期でターミナル対象者と主治医が判断し、ターミナル担当者会議を行いました。御家族様の総意で「暘谷苑で看取りたい。高齢であり外科的処置もしない。」と決断され、苑で出来ることを絵本を用いて説明し看取りの同意をいただきました。乳がんの痛みは座薬でコントロールし、普段と変わらない生活を行っていました。

ご逝去される2週間程前から食欲が弱くなり始めましたが、少しでも経口から摂取できるようにと、消化の良い体に優しい食事、好きなもの、口当たりの良いものなどを個別に栄養士、看護師、ケアワーカーが協力して提供し、ご逝去される当日まで経口摂取で食事をされました。看護師が対応しながら入浴もでき、いつもと変わらない日常の中で生活をされました。ご逝去される日、面会に来られた娘様とたくさんお話し「今日はいつもと違った。しっかりと話が出来て、ありがとうございますと伝えられた。いつも一緒と手を握ってくれた。ターミナル会議で母の死を受け入れ、覚悟したことで今までの間はきちんと母を看取りました。明日会えなくなっても悔いはありません。」と娘様がお話下さいました。最期は、夜勤の介護職員に見守られながら静かに息を引き取られました。

御家族様は最期の場面に間に合いませんでしたが、たくさん利用者様、職員に見守られ、本人様、御家族様の望むように天寿を全うされたことを大変喜ばれました。疾病を抱えながらも緩やかに生活の延長線上で看取ることができた事例だったと思います。

天気の良い日は屋上でのんびりひなたぼっこを楽しんでいます。



事例2 心疾患を繰り返すY様

平成18年に入所され、今年の1月にご逝去されるまでの間を暘谷苑で過ごされました。心臓の機能が低下し狭心症や心筋梗塞を繰り返している方で、急変の可能性があるとして医師が判断し平成19年にターミナル対象者となりました。若い頃から農業一筋の方で、田んぼや自宅の様子を気にしては家族に何度も電話をかけられ「家は変わらないか、田んぼはどうか」と聞かれる方でした。

ターミナル担当者会議の際、御家族様より「今年がもう最後になるかもしれないから、一度田んぼを見に連れて帰りたい」とのご希望があり、運転手、看護師と御自宅の方へ外出されました。田植えが無事に終わった田んぼと変わらない御自宅を見て「これで安心じゃ、良かった」と安堵の表情を浮かべられました。4年半に渡る長いターミナル期となりましたが、その間にも何度か外出で御自宅へと戻られ、田んぼを見たり慣れ親しんだ近所の方と交流されたりと、充実した時間を送ることができました。いつしか御自宅や田んぼの心配をすることがなくなり「もう若いしに任せて大丈夫とわかった」と言われ、御自分の余生を楽しまれるかのように趣味の唄を歌ったり、大好きな炭酸飲料を飲まれたり、唄の歌詞を書いたりしながらゆっくりと穏やかに日常生活を楽しまれ、夜勤の介護職員に見守られながら最期の時を迎えました。

ターミナルを迎えるにあたりご自分の中での最大の心配事を、自分の目で確かめられて心の整理をつけ若い世代に託すことが出来ました。施設に入所しても、家族の協力を得ながら利用者様の希望を叶えることができ、ゆっくりとした時間の中で、その入らしい安定した日々を過ごしながら最期を迎えることが出来たのではないかと考えた事例でした。

施設での看取りは、在宅での看取りとさほど変わらず、積極的な医療介入は出来ません。暘谷苑で今までお見送りしたご遺体は、とても綺麗だったと感じます。自然の摂理の中に還っていくかのように、身体自体が一切を整え始末をつけて、眠るように逝かれます。その理由は、死に向かって準備をしている身体に負担をかける医療を施さないからと考えます。暘谷苑では、点滴やモニターなどの医療器械に囲まれて最期を迎えません。家族や職員に見守られての最期となります。

どこで「死」迎えるかは、簡単には選択できるものではないと思います。まして、積極的な医療のない暘谷

デイサービス 暘谷苑

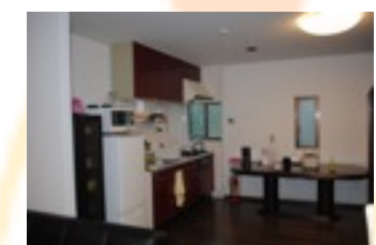
主に認知症の方を対象とした1日定員10名の小規模のデイサービスです。民家を改修した建物になっていますので、ご自宅で過ごしているかのような安心感を感じられます。

1日のスケジュールは特に決まっておらず、ご自分のお好きなように過ごしていただくことができます。お迎えの時間もその方の日内リズムに合わせて、別便で遅くお迎えに行くなどの対応を行っています。少人数での対応になりますので、より個別にあったケアが行えます。

のんびりゆっくり過ごしています



トイレ・浴室



休めるスペースもあります

No. 3 2011年9月 一毎月発行一
発行 社会福祉法人 暘谷福祉会
暘谷苑 医療福祉連携室
所在地 大分県速見郡日出町藤原5708-3
TEL 0977-72-8336
FAX 0977-72-8335

